心を磨く グレース・ケリーの言葉

岡部昭子

Quel que soit le succès que vous avez pu obtenir,
s'il n'y a personne avec qui vous en partagez le bienfait,
vous ne serez jamais heureux.

岡部昭子　Akiko Okabe
株式会社フレア代表取締役。静岡県生まれ。東京女子大学短期大学部英語科卒業。2年間をロサンゼルスに暮らす。1997年よりPRエージェンシー、株式会社ハウにてモナコ政府観光会議局のアカウントを担当。マーケティング＆セールスディレクターとして、モナコのPRとMICEを中心としたセールスプロモーションの活動を手がける。2009年PRエージェンシー株式会社フレアを設立。モナコとの仕事の経験を生かし、旅、ファッション、ライフスタイルを中心としたラグジュアリーブランドのPRやセールスプロモーションを始める。

心を磨く
グレース・ケリーの言葉

2011年9月8日　第1刷発行

著者　岡部昭子
発行者　石﨑　孟
発行所　株式会社マガジンハウス
〒104－8003　東京都中央区銀座3-13-10
受注センター　☎049-275-1811
書籍編集部　☎03-3545-7030
デザイン　河上妙子
印刷　株式会社光邦
製本　株式会社積信堂

©2011 Akiko Okabe , Printed in Japan
ISBN978-4-8387-2324-9　C0095

乱丁本、落丁本は小社製作部宛にお送りください。
送料小社負担でお取替えいたします。
定価はカバーと帯に表示してあります。

マガジンハウス・ホームページ　http://magazineworld.jp/

心を磨く書
グレース・ケリーの言葉

岡部昭子

常州図書館蔵
常州図書館蔵

Palais de Monaco

July 20th, 2011

I would like the Japanese population, through these pages, to discover the magnificent personality of my mother, Princess Grace.

All of the actions that she initiated during her life were marked by her exceptional generosity and by her aesthetic requirements, that she assumed with elegance and righteousness.

Albert de Monaco

2011年７月20日

この本を通じ、日本のみなさまに私の母、グレース公妃の素晴らしい人間性を見いだしていただけますことを願っています。

母がエレガンスと正義感をもって取り組んできた活動からは、彼女の類いまれな寛大さ、美学を見いだすことができます。

モナコ大公　アルベール２世

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

心を磨く グレース・ケリーの言葉＊目次

はじめに ―― 06

第1章 生い立ち・女優 ―― 10
～意志を貫く強さ～

第2章 恋愛・結婚 ―― 48
～運命を受け入れる柔軟性～

第3章 母・公妃 ―― 90
～忍耐から学んだ喜び～

第4章　愛・美 ～人生から見出した慈しみの心～ ―― 136
ダイアナ妃へ送った言葉 ―― 44
マリア・カラスへ送った言葉 ―― 86
ジョセフィン・ベーカーへ送った言葉 ―― 131
グレース公妃と日本 ―― 172
モナコでのグレース公妃の軌跡 ―― 176
グレース・ケリーの一生 ―― 178
あとがき ―― 182

はじめに

私とグレース公妃との出会いは、１９９７年にモナコ政府観光会議局の仕事を始めてから。それまでは、グレース・ケリーの映画を見たことはありましたが、どのような人生をたどったか、そして私たちに何を残したかなど、彼女の人間性については、まったく知りませんでした。

グレース公妃のお墓は、モナコの大聖堂にあります。私もときおり仕事で足を運んだことがあったのですが、そこには美しい花が一年中絶えることなく、亡くなったあとでも、こんなに多くの人たちから愛されているんだなという印象がありました。

そんなグレース公妃の偉大さを知ったのは、２００２年に彼女の押し花展開催についての仕事を受けたときからです。

それまでモナコの人たちのなかでグレース公妃のことが積極的に語られることはあまりありませんでした。モナコ人にとってグレース公妃がどのような存在であったのか話し合うこともありませんでした。どちらかというと、過去の人といった印象、むしろ語ってはいけないような雰囲気がありました。

日本人にとってグレース・ケリーはハリウッドで成功した女優であり、シンデレラストーリーを実現させたモナコ公妃でもある、憧れの女性です。

しかしモナコ人にとっては、彼らの国のプリンセス。特別な存在です。日本と違ってモナコはプリンスが国家元首でもある公国です。それ故に、日本のメディアから、グレース関連の取材の依頼を受け、公室に何度か打診したことがありましたが、許可が下りることは一度もありませんでした。

１９８２年、日本語版のグレース公妃による『花の本』が出版され、ここには、彼女が晩年作りあげてきた押し花が紹介されています。２００２年に提案された押し花の企画展は、グレース公妃が作った押し花の作品を、日本で紹介するという内容のものでした。

観光局の本局を通じてこの企画は公室に持ち込まれましたが、許可が下りませんでした。モナコ公国の公妃を商業的なプロモーションに使いたくないという意向だったのでしょう。その3年後、レニエ公の跡を継いだアルベール公はこの提案を許可してくださったのです。アルベール公からすれば、グレース公妃は血のつながった優しく愛おしい母親。彼女に対するアルベール公の思いが、この素晴らしいイベントの開催を実現させてくださいました。

展覧会開催にあたり、数々の文献を読みましたが、グレース公妃が今のモナコにもたらした影響が絶大なることに驚きを覚えました。

1929年11月12日にフィラデルフィアで生まれ、ニューヨーク、ハリウッドで女優として花を咲かせ、モナコの公妃として52年の一生を終えたグレース。

没後30年たった今でも世界中の人々を魅了し続けています。彼女が女性として、母親として、公妃としてどのような人生を送ってきたのか？　どのようなメッセージを私たちに残していったのか？

彼女の家族や友人、仕事で関わってきた人たちからも話を伺い、彼女が残した

遺産をたどってみました。

「いつの時代でも、世の中を支配する男性の陰には、その人に感化を与える女性がいて、いろんな形で助けていることが多いのです」

と、インタビューでグレースは語っています。

少しでも多くの方にエレガントで美しいグレースの本当の姿を感じ取っていただけたらと思います。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第1章

生い立ち・女優

～意志を貫く強さ～

あの子は、すべて自分でやり繰りし
完全に自立していました。
家賃も自分で払っていたし、
父や母は1ペニーだって
仕送りしたことがありませんでした。

ペギー・ケリー（姉）

グレースは、セクシーで魅惑的である。
冷たい表情の裏側には、
火が燃えたぎっているかのように
思わせるものを持っている。

アルフレッド・ヒッチコック（映画監督）

驚くべき女優だった。
彼女が演技の中で私の話を聞くときは、
真剣に耳を傾けてくれた。
ブッダのように、
すぐそばで聞いてくれるのだ。

ケイリー・グラント（俳優）

01

ケリー家では何をするにも
必ず成功しなければいけないの。

１９２９年11月12日、４人兄妹の次女としてフィラデルフィアの裕福な家庭に生まれたグレースは、生まれたときから病弱で内気な女の子でした。

レンガ専門の建築会社で大成功をなした父親のジャック・ケリーは、アイルランドからの移民２世。オリンピックのボート競技の金メダル勝者で、勤勉と規律、スポーツマンシップを重んじる長身でハンサムな父親でした。

母親はドイツ移民の家系で、その当時珍しく、フィラデルフィア大学で教鞭をとる厳格な職業婦人でした。家族は敬虔なカトリック信者で、カトリックの教えは、後のグレースの生き方に大きな影響を与えます。

活発な他の兄妹に比べると、グレースは内向的でした。そのため両親もあまり彼女には、将来の成功という面では期待していなかったようです。

しかしグレースは、両親を崇拝していました。「すべては地道に誠実に努力をしてなし得るべきだ」という父からの教えを、しっかり守っていたのです。

両親からの大きな期待を背負っていたのは、４人兄妹の唯一の男の子、兄のジャックJr.でした。

実際、父が果たせなかった夢、ヘンリー・ロイヤル・レガッタでのダイヤ

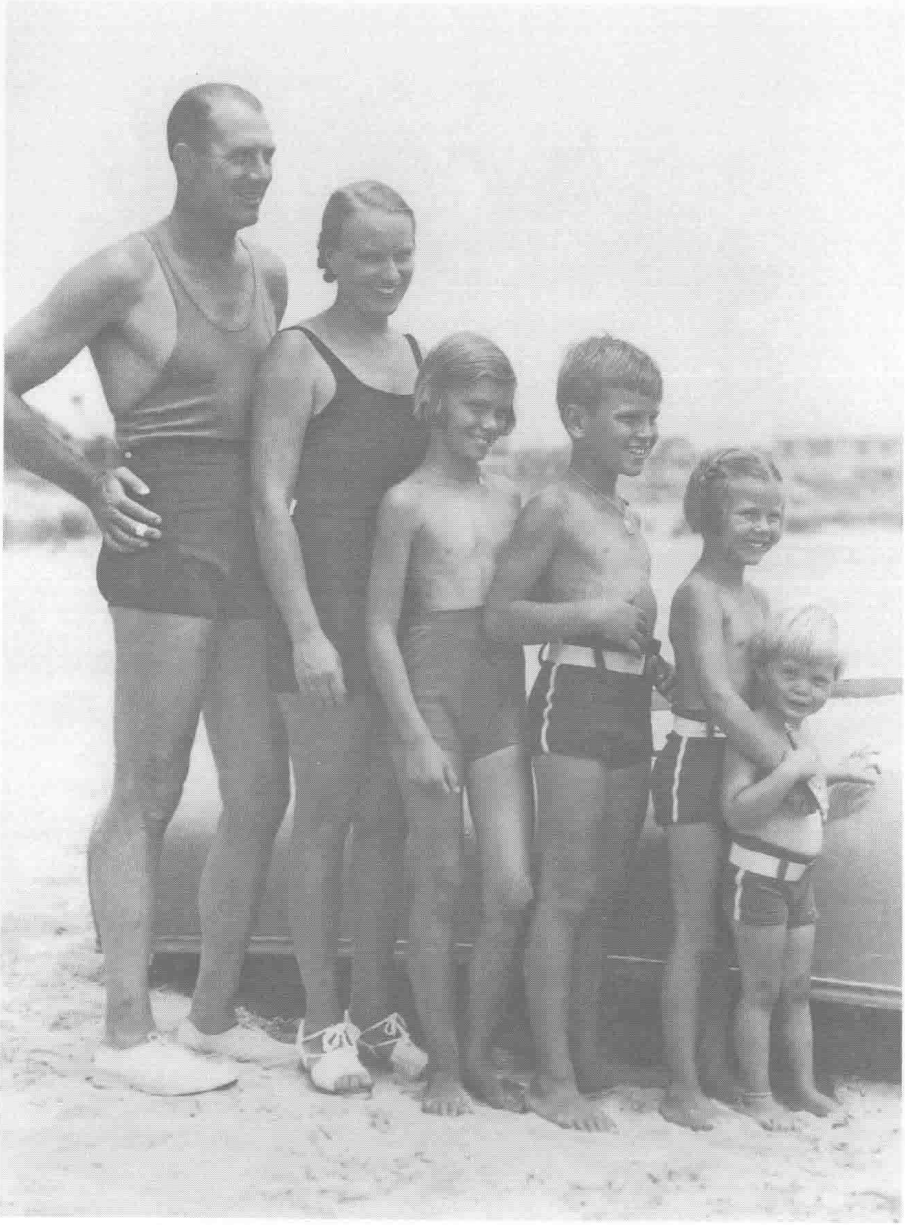
モンド・チャレンジ・スカルのレースで優勝を果たしています。

ヘンリー・ロイヤル・レガッタとは、19世紀初頭からの長い歴史を持つ、イギリスの上流階級の社交イベントでもあるボート競技です。イギリス王室がパトロンとなって、テムズ川を舞台に、世界中のチームにより、熱い戦いが繰り広げられます。

グレースの父は、もともとレンガ職人だったので、上流社会のメンバーとはみなされず、このレースには出場することができませんでした。しかし息子は、ダイヤモンド・チャレンジ・スカルに出場。父親のプライドを、十分に満足させたのです。

一番上の姉、ペギーは聡明で活発な女の子。父の一番のお気に入り。何かの分野で成功するとしたら、それはペギーだと父親は思っていたようです。そして3番目が、父親に何とか認めてもらおうとしたグレース。末っ子のリザンヌはそういう家族関係を客観的に見つめていたようです。

それぞれの家族の思いが絡み合うなか、実際に父親の教えを実践して成功を遂げたのは、グレースでした。忍耐強く、自分の目標に向かって努力をし続けたのです。魅力的で愛する父親に認めてもらえるようにと。



ケリー一家。左から父・ジャック、母・マーガレット、長女・ペギー、長男・ジャックJr.、次女・グレース、三女・リザンヌ。
©SIPA/amanaimages

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com